

強度行動障がいのある方への教育、医療、福祉連携の先進的な取り組み（佐賀/福岡の4機関）の視察

視察日 6月5日、6日、7日

視察スケジュール

6月5日（障がい者地域生活・行動支援センター か～む）

13:00～16:30 事業概要説明、館内見学、質疑応答、意見交換

6月6日（社会福祉法人はる/NPO法人それいゆ）

9:00～12:00 社会福祉法人はる 事業概要説明、館内見学、質疑応答、意見交換

13:00～16:30 NPO法人それいゆ 事業概要説明、館内見学、質疑応答、意見交換

6月7日（肥前精神医療センター）

10:00～16:00 病院概要説明、病棟見学、質疑応答、意見交換

障がい者地域生活・行動支援センター か～むについて

- ・所在 福岡県福岡市城南区東油山(じょうなんくひがしあぶらやま)
- ・視察対応者 森口所長、スタッフのみなさま

①主な事業

- ・集中支援事業
- ・移行型グループホーム
- ・地域生活支援拠点事業に基づく、緊急受け入れ事業
- ・強度行動障がい者の受け入れ

②内容

- ・強度行動障がいのある方を受け入れ、か～むを利用中に支援の土台や活動の流れ、1日のスケジュールを整え、移行先を見据えて生活の土台を作る
- ・受け入れのルートは在宅や施設で状態像が悪化した場合と移行先が決まっている場合の2つがある
- ・引き継ぎのOJTではか～むに移行先の職員が来る場合と、か～むの職員が移行先へ出向く場合がある
- ・福岡市ではOJTでの引き継ぎの際に本来の稼働ができなかった事業所へ補償する仕組みがある
- ・か～むでは正職員3割、嘱託職員7割で支援を行なっている
- ・新しい職員には強度行動障がいのある方への支援や行動記録、行動分析についての共通研修を実施する
- ・現場職員が行動記録を紙ベースで記録し、管理職が記録から対象者の行動を分析し仮説を立てる

③か～むの視察と取り組みから学んだこと

- ・強度行動障がいのある方への支援では行政や教育、医療、地域など多くの関係機関との体制作りが必要
- ・短時間であっても毎日行動分析に基づいた支援の助言を続けることで現場職員のスキルアップを図れる
- ・強度行動状態の改善には仮説検証および行動記録の数値化が重要
- ・他機関との支援情報の引き継ぎでは紙資料だけでなく、OJTに基づく関わりの方の伝達が重要
- ・行動分析や基本的な支援の知識は入職前の段階で事前学習する機会を設けると学びが深まりやすい
- ・か～む利用中にスムーズな地域移行のため地域、医療機関と連携を図り、情報を共有する
- ・OJTを通じて移行先の事業所職員へ強度行動障がいのある方への支援を引き継ぐ

④か～む視察時の様子



社会福祉法人はるについて

- ・ 所在 佐賀県佐賀市高木瀬町1 1 6 8 - 1
- ・ 視察対応者 福島理事長、上田課長、野中主任、水尾リーダー、スタッフのみなさま

①主な事業

- ・ 強度行動障がいのある方への生活支援
- ・ グループホーム、ショートステイ、生活介護、相談支援事業所、就労継続支援 B 型、居宅介護事業所他
- ・ 障害者の芸術活動支援モデル事業

②内容

- ・ 佐賀 CB 支援勉強会に参加し、教育関係者や医療従事者とのネットワーク作りを行なっている
- ・ 佐賀県強度行動障害支援者フォローアップ研修では事例検討を通し、具体的な知識や支援技術を深めたり、福祉、教育、医療との連携に欠かせない共通知識の形成を行なっている
- ・ 週 1 回のミーティングではグループホームや生活介護の職員が集まり、支援会議を行なっている
- ・ グループホームでは利用者の個性や特性に合わせて内装を変え、窓の位置や壁の作り、動線に配慮した環境設定を行なっている
- ・ 居心地のよい空間を目指し、居室の内外の装飾や利便性を高める工夫を行なっている
- ・ 生活介護では利用者の方への意思決定支援に重きを置き、生活の質の向上に取り組まれている
- ・ 利用者一人一人の特性や得意なこと、好きなことをまとめた書式を使って職員の共通認識を作っている

③はるの視察と取り組みから学んだこと

- ・ フォローアップ研修の枠組みを活用し医療、教育、福祉のネットワークを作る
- ・ ミーティングにて法人理念を唱和し、職員の価値観の統一を図る
- ・ 新職には手順書と OJT にて利用者への関わり方や支援技術を伝達する
- ・ 外部機関のコンサルテーションを受けることでケースの抱え込みを減らす
- ・ 利用者の方向士の相性に配慮し、活動スペースや日課、動線を整理する
- ・ 意思決定支援を重視、利用者の方の生きがいや余暇を大切にする
- ・ 芸術活動を介し、その人らしい創作機会を提供と地域社会との交流を図る

④はる視察時の様子



特定非営利活動法人それいゆについて

- ・所在 佐賀市鍋島町大字蛸久
- ・視察対応者 吉永センター長、山崎生活支援員、スタッフのみなさま

①主な事業

- ・強度行動障がいのある方への生活支援
- ・児童発達支援及び放課後等デイサービス、グループホーム、生活介護、相談支援ほか
- ・外部機関へのコンサルテーション

②内容

- ・個々人の特性に合わせたスケジュールや活動設定、エリア構造の工夫を行なっている
- ・情緒記録表や環境調整結果をもとに通院資料を作成し、医師との服薬に関する話し合いの材料とする
- ・施設環境をユニバーサルデザインで統一し、利用者や職員の両者にとって使いやすい空間とする
- ・毎年特性シートを更新し、利用者の方に根拠に基づいた支援を提供する
- ・利用者の方の強みや興味関心を活用した支援グッズを作り、隙間時間を一人で過ごせるように支援する
- ・共通の利用者を支援するため法人内外の事業所と連携と情報共有を重視している
- ・法人内で3日間のワークショップ型研修会を企画し、職員の支援力の向上を図る

③それいゆの視察から学んだこと

- ・グラフや数値といった客観的な情報を加えた通院資料を作成すると医師との情報共有がしやすくなる
- ・これまでの支援経過や利用者の方のスキルや経験を活かして、自立的な活動や居住環境を整える
- ・防音材やパーテーション、天井などを機能的に使い、苦手な刺激への配慮や健康増進の取り組みを行う
- ・過去の被災経験から災害時の避難シンボルを各エリアに配置する
- ・数年分の情緒記録をもとに不穏表出の時期や周期を予測する
- ・個々人の生活シナリオを作成し、どのような生活を送ってほしいかを具体化する
- ・意思決定支援として各地の旅行やイベントを企画し、利用者の方の特別な余暇を保証する

④それいゆ視察時の様子



肥前精神医療センターについて

- ・所在 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津
- ・視察対応者 會田統括診療部長、山元精神科医長、野間口看護師長、井村 MSW、スタッフのみなさま

①主な事業

- ・精神科、神経内科、老年精神科、児童精神科ほか
- ・精神科スーパー救急病棟、児童思春期病棟、療育棟、多機能型通所事業ほか
- ・強度行動障がいのある方への医療的ケア

②内容

- ・病棟単位で様々な状態像の強度行動障がいのある方への医療的ケアを実施
- ・外来や短期入所、入院受け入れにおいて地域の福祉事業所や教育機関などと連携している
- ・各専門病棟では、医師、看護師、療養介助員、保育士、児童指導員他がチームで治療する
- ・児童精神科病棟では九州各地の児童相談所から一時保護事例の委託を受けている
- ・療育棟には体育館があり、運動やアロマ、スヌーズレンなどの余暇活動で活用されている
- ・多機能型通所事業所では保育士、看護師、療養介助員等が支援にあたっている
- ・南3病棟では合併症や機能低下のある強度行動障がいの方が地域移行を目指して治療を受けている

③肥前精神医療センターの視察から学んだこと

- ・患者のアセスメントではあらゆる情報を収集し、感覚特性や行動上の問題、能力と支援の方向などを精査する
- ・患者ごとにクライシスプランを設定し、状態像と介入方法を統一する
- ・病棟内で感染症が確認された場合にアクションカードを用いて迅速に予防対応を行う
- ・佐賀 CB 支援ネットワークを発足し、医療、福祉、教育、専門機関の連携を深めている
- ・地域で対応困難となった事例を短期入所または入院で受け入れ、事業所の再構造化を支援する
- ・児童精神科病棟では学習支援として特別支援学校の訪問教育を実施している
- ・患者の特性に応じて病棟内でスケジュールの設置や支援グッズを活用している

④肥前精神医療センター視察時の様子



強度行動障がいのある方への教育、医療、福祉連携の先進的な取り組み（函館侑愛会）の視察

視察日 6月12日、13日

視察スケジュール

6月12日（水）	11：00～12：00	発達障害者支援センターあおいそら 事業概要説明、館内見学、質疑応答、意見交換
	14：00～15：30	ワークセンターほくと 事業概要説明、館内見学、質疑応答、意見交換
6月13日（木）	10：30～12：00	星ヶ丘寮 事業概要説明、館内見学、質疑応答、意見交換
	13：00～16：30	ねお・はろう 事業概要説明、館内見学、質疑応答、意見交換

発達障害者支援センターあおいそらについて

- ・所在 北海道函館市石川町
- ・視察対応者 片山センター長、榎本コーディネーター

①主な事業

- ・機関支援（コンサルテーション）
- ・研修会の企画
- ・外来相談
- ・発達障害の普及・啓発

②内容

- ・教育機関や福祉施設など関係機関へのコンサルテーションを行なっている
- ・コンサルテーションでは強度行動障がいのある方への支援を通して支援力の向上を図る
- ・利用者の方の特性やスキル、興味関心などのアセスメントを実施
- ・帯広の発達障害者支援センターの休止に伴い、オンラインでの地域支援を行なっている
- ・同じ建物内には障がい者就業・生活相談支援事業所、委託相談支援事業所があり、連携体制にある
- ・地域づくりコーディネーターとしての役割もあり、また片山センター長は広域的支援人材のお立場としてもご活躍されている

③あおいそらの視察と取り組みから学んだこと

- ・コンサルテーションでは利用者の方の正しい特性理解に向けてOJT的な関与を行う場合がある
- ・事業所のリーダー的人材の有無や関与の許容度、管理職の認識等をアセスメントする
- ・支援において似た価値観をもつ法人単位の仲間作りが人材育成や支援力向上では大切
- ・強度行動障がいの背景には支援者含め関わる人のアセスメント間違いが大きく関係していることが多い
ため、支援者の支援力向上が重要
- ・フォーマルアセスメントではTTAPやPEPによるアセスメントを活用するため、介入期においてはその要素を重要視する

④あおいそら視察時の様子



ワークセンターほくとについて

- ・所在 北海道北杜市押上
- ・視察対応者 小黒施設長、菅野課長

①主な事業

- ・在宅またはグループホーム在住の方の日中活動の提供
- ・生活介護サービス事業所
- ・行事や活動を通じて地域交流（社会参加）に力を入れている

②内容

- ・アート活動に力を入れており、利用者の方の個性に合わせた創作活動を行なっている
- ・利用者の方のスキルをアセスメントし、適正のある授産活動を提供している
- ・意思決定支援として年に数回の行事やイベント参加を行なっている
- ・社会参加を目的に施設外就労の取り組みを行われている
- ・地域の特色が表れる活動（ほくとでは魚網の分別作業）を取り入れている
- ・アート活動に力を入れている一方で利用者の高齢化により活動の充実より運動機会の確保による身体機能の維持が大きなニーズとして表れてきている
- ・障がいがあっても何らかの形で地域に還元できるように地域住民が参加できるイベント（カラオケ大会等）を開催している

③ワークセンターほくとの視察と取り組みから学んだこと

- ・創作活動は利用者一人一人の個性が表れるとともに社会参加の有効な手立てとなっている
- ・アセスメントでは主に TTAP を実施し、環境調整や活動提供の手がかりを集めている
- ・利用者と職員ともに地域社会の役立つような関わりを目指すことが大切
- ・アート等の制作物を販売する販路の確保が販売促進、工賃還元に大きく繋がってくる
- ・他害や自傷などその方の行動障がいに着目するのではなく、その方の活動や余暇の幅をどう広げていくかが重要である
- ・限られたスペースにおいてもパーティションや家具（机やソファ）の配置や活動動線を工夫することで必要な活動スペースを確保することができる

④ワークセンターほくと視察時の様子



星ヶ丘寮について

- ・所在 北海道北斗市当別
- ・視察対応者 中野園長、兒玉副園長、スタッフのみなさま

①主な事業

- ・知的障がいを伴った自閉症の方々が多く利用される障がい者支援施設
- ・24時間365日のアセスメントを中心とした個別支援を展開し、暮らし全般をトータルで支える
- ・ひとりのできる事を通して、自発性を高め一人ひとりの生活スタイルの獲得を大切にしている

②内容

- ・日中は働く事を中心に4つの作業班と1つの分場で仕事を行なっている
- ・日中の作業では魚網のリサイクルや茸の栽培、トートバック等のクラフト制作を行う
- ・利用者の方の高齢化に備え仕事からいきがいや余暇活動への転換を検討している
- ・強度行動障がいの困難事例について、行動記録やケース記録をソフトウェア上で関係機関と共有し、連携を図っている
- ・別棟（6名定員の小舎）があり、グループホーム移行の最終調整場所としての環境を整えている。現在まで10名以上の地域移行を実現している

③星ヶ丘寮の視察から学んだこと

- ・利用者の新規受け入れでは半年程前から特性把握のアセスメントや活動環境の構想を検討する
- ・余暇のアセスメントでは利用者の年齢や生育歴、特性情報から好みを予想し試しながら相性を確認する
- ・強度行動障害のある方の受け入れでは表出の収束方法や頻度、余暇、終わりの理解等を確認する
- ・余暇アセスメントと活動の終わり方の学習については別の場面でアセスメントし支援を展開する
- ・居室等にインターホンを設置し適切な形態で伝えたい思いを相手に伝える方法としての環境を整備する

④星ヶ丘寮視察時の様子



ねお・はろうついで

- ・所在 北海道北斗市当別
- ・視察対応者 上川園長、スタッフのみなさま

①主な事業

- ・施設入所支援、生活介護、短期入所、日中一時支援
- ・知的に重度な自閉症および行動障がいのある方を支援する施設
- ・一人ひとりの自分らしい「くらし」と「いきがい」を支援することを大切にしている

②内容

- ・西棟と東棟に分かれており、各 12 名の男性 4 ユニット、女性 1 ユニットで構成されている
- ・自分で選び、自分で決められるように支援する意思決定支援に力を入れている
- ・利用者への行動支援計画を策定し、統一書式でアセスメント状況や支援状況の共有を行なった
- ・入所者では道南出身の方が中心だが青森、札幌、旭川等の各地から受け入れも行なっている
- ・ユニットの一部に個別支援エリアという場所があり、トイレやお風呂完備で他者への他害防止や地域移行へのステップアップのために活用している
- ・地域移行については少なからずニーズはあるが、生活介護、行動援護、居宅介護などの周辺サービスが整わないのであれば今のままで良いという入所者やご家族の意見も多い

③ねお・はろうの視察から学んだこと

- ・各利用者のできることや興味関心を整理し、今からでも経験や選択できる機会を設けるために月に 1 回個別での外出や余暇づくりをする意思決定支援が大切
- ・意思決定支援についてまずは現状としてその方の生活の中でどのくらい意思決定機会があるのか知る所から始める
- ・フォーマルな検査 (TTAP や PEP 等) の評価から支援を組み上げ、個々に必要な構造化を考える
- ・アセスメントではコミュニケーションと表出の仕方、機能、気になる事を整理し、将来を見据えながら利用者の方が自分らしく暮らすための強みを生かす工夫が大切

④ねお・はろう視察時の様子

